

# あらかき通信



京都市右京区梅津高畝町52-2 〒615-0906

株式会社 アラキ工務店

あらかき通信 第三回 2004年7月1日発行

(株) アラキ工務店

編集・発行 村上幸男

ホームページ

<http://www.kyoto.zaq.ne.jp/araki/>

## 暑中お見舞い 申し上げます



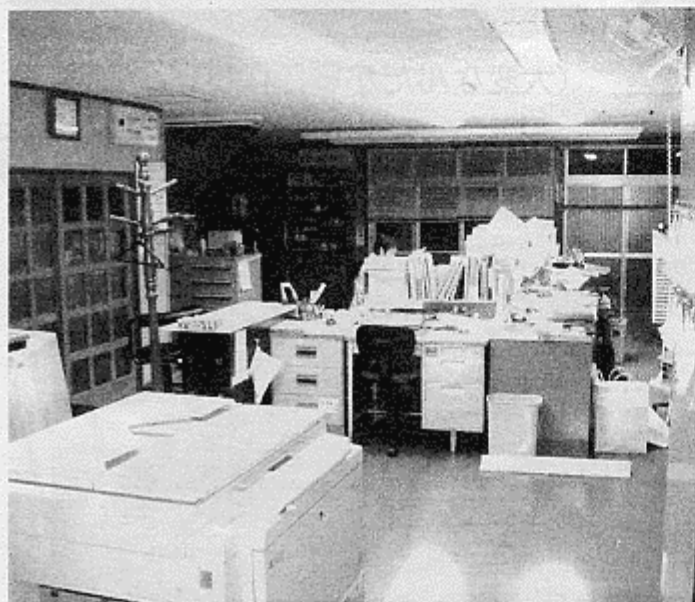
今年もいよいよ、暑い夏が始まります。皆様いかがおすごしでしょうか。

我々も、毎年ながらこの暑い時期をむかえると、今年もうまく乗りきれぬだろうかと、職人さんたちの中から、体の具合が悪くなって長期の休みを取る人が出るか心配します。又今年入った新入生がこの暑い時期を無事にすごせるか。これもまた心配のひとつです。皆様も無理をせずに、十分な休養と睡眠を取って、長時間日なたに出ることをさけるように気をつけておすごしになれば大丈夫かと思えます。

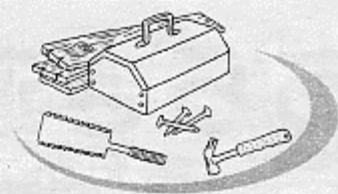


## うれしい事に!

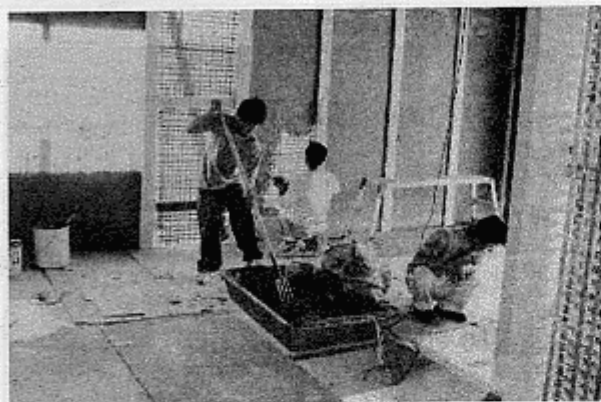
私共の事務所が広くなりました。昨年の秋口から改修をしていましたが、仕事仕事の合い間にするものですから、いっこうに進まず、秋の終わりには出来る、いや正月明けにといつつつ、結局5月の連休に最後の追込みをして、休み明けに完成しました。かなり広くなり、快適です。



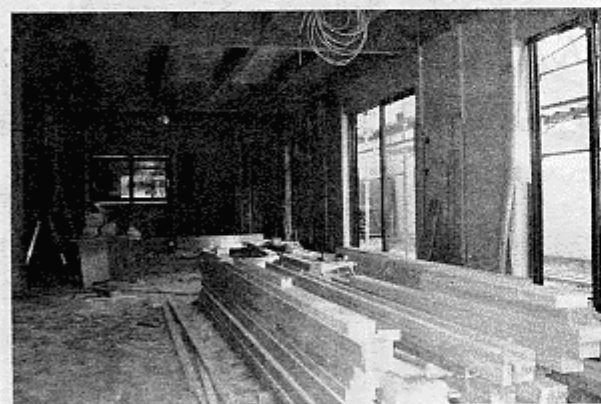
今こんな事をしています



## 荒壁をつける家



荒壁をつけています



1階、LDK部分です

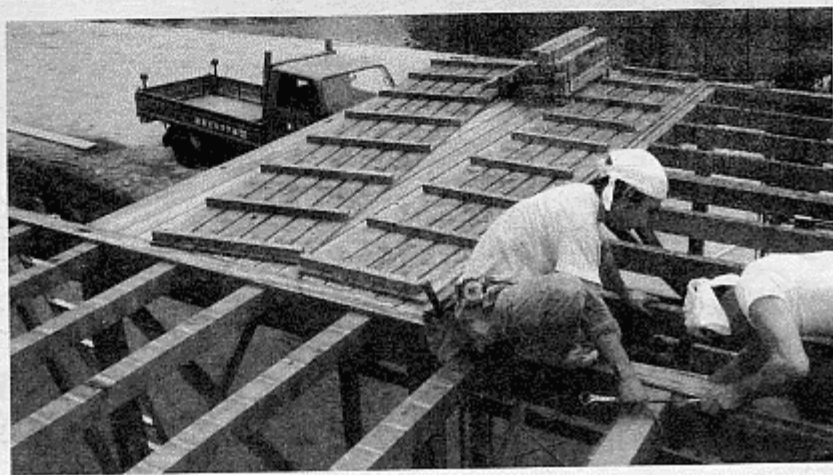
京都市の北区にて、荒壁をつける新築の家を建てています。

内部はほとんど真壁漆喰塗り、外部も漆喰仕上げで、今から出来上りが大変たのしみです。

土にもこだわりをもちまして、綾部のある業者が取り扱っている土が良いと聞いて、トラックにて、取りに行つての土塗りです。塗っている左官職人からも非常に塗りやすく、良い土ですねわざわざ遠方にまで行ったかいのある土ですねと評価してもらっています。

そらそうでしょう。運んでいる土よりも運搬費のほうが高がついているんだからねと思わずつぶやく私です。

(大変なんだからこれが)



# 6月に完成の家（円形の吹抜が特徴）



道路からの全景

去年の末からかかっているお宅が完成しました。一番の特徴はこの吹抜のある円形の階段ホールでしょう。これは今までちょっと例を見ない造作です。この部分にかなりの時間がかかりましたが、出来てみるとかけた手間以上の出来ばえです。

他の部屋もそれぞれに特徴のある施工をしています。



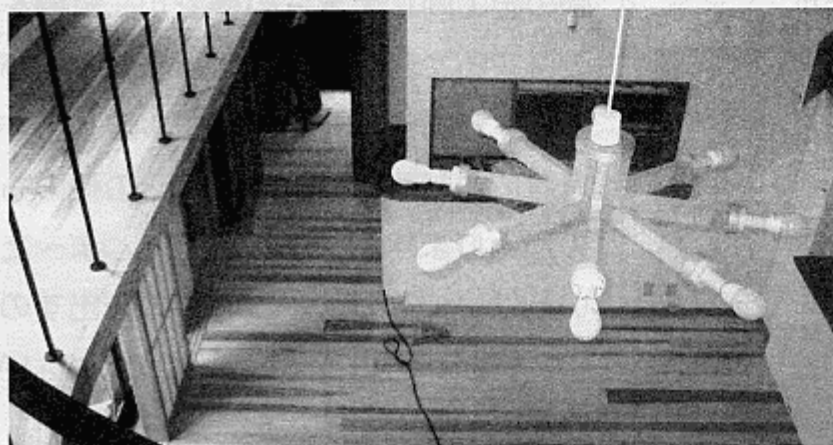
吹抜、円形の階段ホール

右側が吹抜内部で階段が円形の壁に沿って上ります。これを上ってみると、ナカナカのものですよ。

吹抜け円形の階段ホール



下の写真の吊り下げ型の照明器具はアラキ①が作りました。



廻り階段の途中から下を見る。思わず、ニコリとする風景です。

## お施主さんに一言

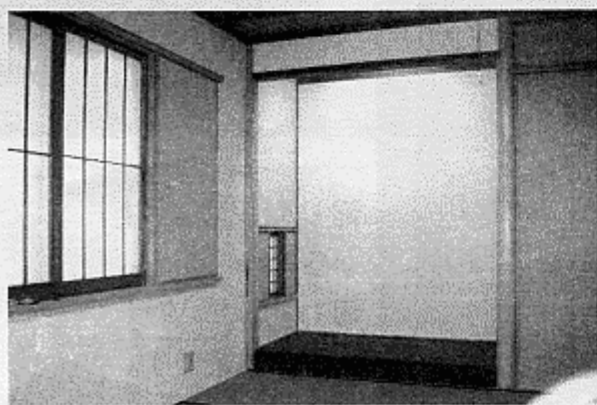
今回は **米沢和也** です



お世話になっております。私も入社してやっと一年を過ぎたところですが、その間、様々

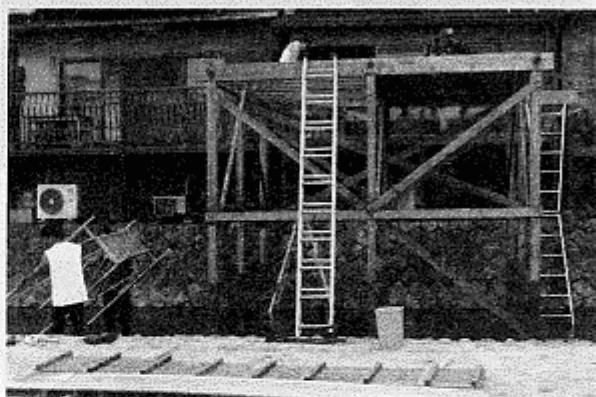
なお客様と出会い工事させて頂けた事を心より感謝しております。本当にありがとうございました。また、この一年を振り返り、反省すべき点が多いのですが、例えば、打合せ時の質問に即答できなかったことや、現場監督として適切なアドバイスが出来ているのか？など、まだまだ経験不足だという事を痛感した一年でした。

これからは、より一層努力し、自分自身納得のいく現場監督になれるよう、また、一度工事を任していただいた皆様から指名を受けられるよう頑張りますので、今後とも宜しくお願い致します。



## 季節を感じる風景

この時期になると先斗町の床出しがあります。ウーンもうそろそろだなと思うと、夏がもうすぐと実感します。足を川につけながら組立てるのでよけいに夏を感じるのでしょうかネ。



## 町屋や古材についての 取り組み 雑記

先日も、あるお家から、解体中に畳が処分ということを知った会長が、本間の畳だから捨てずに残しておくようにと指示があり倉庫に入れました。本間の全て同じ大きさの畳です。町屋を改修するとき、なかなか本間の畳が無く、苦勞するとの話です。ますます倉庫に古材や古建具、畳やその他のものが入りますが、この調子だとま〜たいっぱいになり、一つのものを出すのにたいがい苦勞する事になりはしないかとやや心配です。

# 住いについてのいろいろな話 (家の手入補修から、気をつけることなど)

## 第1回

### 家の周囲にある排水用のマンホールや格子フタを開けてみる

今回は最初ということで、最近実際に私の近辺でおこったことについての報告をしたいと思います。

私の携帯電話に嫁さんから電話が入りました。

「モシモシ、すぐ家に帰ってこれない？」

「何かあったのか」

「実は裏の道路にあるマンホールの内部が壊れているらしいの」

との内容です。詳しく聞いてみると、突然、作業服を着た男が2人このマンホールを開け（勝手にです）

「これは排水がもれている。すぐに直さないと、大変なことになる」  
と言うわけです。それで、今なら2万5千円で直しますと言い、かなりしつこくせまり、私の家のものが、

「あなたはどこの誰ですか。私の主人は建築業です。直すものがあれば、店の業者に頼んで直しますのでイリマセン」

と言ってもなおもしつこくせまってくるので、先ほどの電話になったので

す。

結局これは家のものが、そんなにしつこく帰らなければ、警察に連絡して来てもらうからと言ったところ、ようやくあきらめたとのことでした。

その後、私に家に帰った時には全て終了したあとだったのですが、あとで近所の人からいろいろと話を聞くと、一軒一軒表札を見ながら歩いていたそうです。

年配らしき名前の書いてある家ばかりに入っていったとのこと、ウーンおとなしい人なら押し切られてしまうかなと思いました。しかも必ず契約書をふりかざして迫るそうです。

皆様もたまには家のマンホールや雨水マス（雨水のたまり場）のフタを開け、水の流れや、何か詰まっていないか、ヒビ割れや水漏れ等が無いか1年に一度は自分の目で確かめて見ておく事は必要です。又このような時は『出入りの業者がいるのでいりません』とハッキリと断ってください。

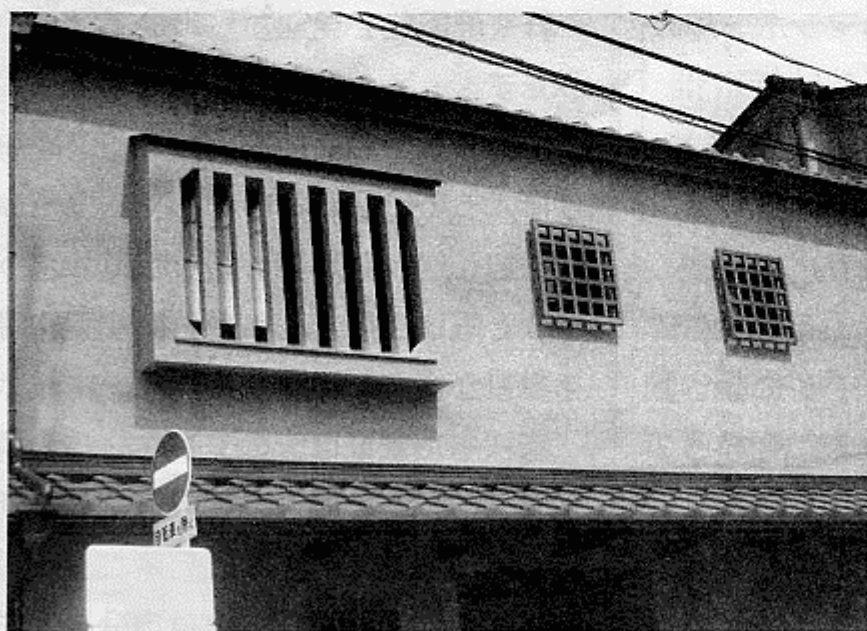
## 新しく入った 坂口文孝 です



5月の末にハローワークから紹介されて面接を受けました。今までも大工をしていましたが、もっと木を使う仕事をしたいくて、いろいろと探してやっとここにめぐり会えました。早く難しい仕事をまかされるようになりたくて、毎日勉強しています。

宜しくお願いします。

あかるくてよく動いてくれます。  
研究熱心なところが好感がもてます。



## 「京・杉の家・座」という 集団に加盟いたしました

「京・杉の家・座」は、杉をはじめとする京都の木にこだわり、節の有無にかかわらず丸ごと使っていこうという運動をすすめる集団です。

もともと、この運動は弊社で仕事をさせてもらっている『もえぎ設計』さんがはじめられました。

今、京都では、地元の木が使われず、山が放置され、荒廃するという危機に直面しています。

地元の木を住まいに生かす仕組みを作ることが大切だと考えています。

パンフレットを同封していますので、ぜひご覧ください。



## 編集後記

第3号も何とか予定日までにまとめられました。ヨカッタヨカッタ。

京・杉の家・座の連絡事務所になりました。京都産の杉で全てまかなう家なのです。大変ですが、これもうれしい話です。

このような森林組合は日本中に有り、それぞれ地方の杉を使用して家を建てようと、さまざまな事業をされています。お互いにガンバリたいものです。

これを書きながら、もう第4回目のことが頭をチラチラよぎります。今度こそは十分な用意をして、と思っています。 村上